

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2017年9月19日

| | | | |
|------------------|---------------|-------------------------------------|-------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等： | 法学部 | 学年（プログラム開始時）： | 学部4 |
| 参加プログラム： | 全学交換留学 | 派遣先大学： | Durham University |
| 卒業・修了後の就職（希望）先： | | | |
| | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職（医師・法曹・） |
| | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| | 5. 民間企業（業界： ） | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| | 7. その他（ ） | <input type="checkbox"/> | |

派遣先大学の概要

ダラム大学はオックスフォード・ケンブリッジに続き英国で3番目に歴史のある総合大学です。人文科学や社会科学において高い評価を得ています。自治権を持つカレッジ（寮）が重視されるダラムでは、カレッジ単位の行事や活動が多く、現地学生・留学生の枠を超えて密接な人間関係を育むことができるのも魅力です。

留学した動機

就職に先立ち、組織や職業に縛られない身分で自分の可能性を試したいと思いました。法曹として国際的な活躍をしたいと考えているため、そのために必要な国際的なコミュニケーションの力を磨き、経験を積みたいと思いました。

留学の時期など

| | | | | | |
|--|------------------------|-------|-------|---------|----------|
| ①留学前の本学での修学状況： | 2016年 | 学部4 | 年生の | S 2 | 学期まで履修 |
| ②留学中の学籍： | 留学 | | | | |
| ③留学期間等： | 2016年 | 10月～ | 2017年 | 6月 | |
| | 学部4 | 年時に出発 | | | |
| ④留学後の授業履修： | 2017年 | 学部5 | 年生の | A 1 | 学期から履修開始 |
| ⑤就職活動の時期： | 2018年 | 学部6 | 年生の | 6月頃に | 行う予定 |
| ⑥本学での単位数： | 留学前の取得単位 | | | 82 | 単位 |
| | 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位 | | | 8 | 単位 |
| | 留学後の取得（予定）単位 | | | 2 | 単位 |
| ⑦入学・卒業／修了（予定）時期： | 2013年 | 4月入学 | 2018年 | 3月卒業／修了 | |
| ⑧本学入学から卒業／修了までの期間： | 5年 | | | ヶ月間 | |
| ⑨留学時期を決めた理由： | | | | | |
| <p>自分にとっての学部時代の目標の一つである、司法試験予備試験を合格した大学3年生の秋口に留学準備をしたため、現実的な選択肢として4年生での留学を視野に入れました。</p> <p>また、留学の目的の性質上、学部の勉強がひと段落し、実社会に向けた準備をする時期である大学4年生に留学することが好ましいとも考えました。</p> | | | | | |

留学準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

講義の履修については、学部をまたがって履修できるため、各学部の興味のある授業を万遍なく希望しました。2016/17年度は到着後に履修を変更することができたので、あまり心配せずに希望を伝えると良いでしょう。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

学生ビザであるTier4は申請から発行までに1ヶ月程度要する上、窓口の開館時間が限られているため、前もって準備することが好ましいでしょう。

ビザ申請に際し、戸籍謄本等の英訳を求められることがありますが、これは留学先が高等教育機関である場合は提出が免除となることが多い一方、抜き打ち・アトランダムに提出を求められることもあるようです。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

英国の社会保険であるNHSについては留学生・駐在員等について保険料支払の要否が政策によって変わることもあるようなので、注意しましょう。2016年現在は、ビザの発行条件として支払いが義務づけられました。

英国の医療機関のシステムは慣れていないとどこに行けばいいかわかりにくいので（GPと専門医の違いなど）、なるべく医者にかからなくても済むように常備薬は持参しましょう。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

全学交換留学・奨学金での加入が義務付けられた「附帯海学」に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

所属学部での特段の手続きは行いませんでした。

強いていうならば、大学4年生の秋からの通年の留学の場合は、「留年」手続きが必要となるので、念のため所属学部との緊密な連絡を取っておくことが大事かと思います。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

出発前の語学レベルは日常会話では困らない程度でした。興味のある洋書等で多読力を補強しました。もっとも、専門用語等については辞書等を探しておくといいように思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本から持参するものとしては、冬用の厚手のコートが必要です。現地で購入することも可能ですが、講義の開始する10月初頭にはすでに気温が大きく下がる日もあるため、準備をしておくべきでしょう。

出発前には、自分のノート術を見直しておくといいように思います。英語での講義では日本語のノートと異なったレイアウトや取り方をする方がよいこともあるので、事前に考えておくといいように思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

| 授業科目名 | 単位数 | 単位認定の申請 | 授業科目名 | 単位数 | 単位認定 |
|---------------|-----|---------|----------------------|-----|------|
| Legal Skills | 2 | | New Venture Creation | 2 | ● |
| Contract law | 2 | ● | | | |
| Tort Law | 2 | | | | |
| Company Law | 2 | ● | | | |
| Jurisprudence | 2 | ● | | | |

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

講義では日本以上に予習復習をすることが求められ、少人数制のTutorialでは積極的に質疑応答が行われます。日本での大教室での講義とは異なり、同程度の人数の講義であっても双方向のやり取りが行われていたのは印象的でした。特に思い出深いのが法哲学（Jurisprudence）の講義であり、毎週100ページ以上の予習をして発表をするという作業は骨が折れましたが、法哲学の発展を支えた英国ならではの骨太の講義でした。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

通年で6科目の履修が認められました。学部をまたぎ、最大3学部からの履修ができるため、比較的幅広い選択肢があるように思います。卒論指導等の履修こそ認められませんが、履修に制限がないのは魅力です。週あたりの学習時間は、時期によって異なりますが、講義が60分であり、個々人による予習復習を中心とするダラムの学習スタイルから鑑みるに少ないとは言えません。

④学習・研究面でのアドバイス

講義が通年で行われるため、初期の段階から期末試験や課題を見据えた準備が求められます。もっとも、数週間に1度あるTutorialではきめ細かい指導が受けられるため、その機会に理解度を確認することができます。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

英語圏なので、特に問題はありませんでした。もっとも、Northumberland近郊のアクセントは英国人であっても慣れるのに時間がかかるため、大学のポーターや事務員の方等とのコミュニケーションは苦労することもあるかもしれません。また、Class制度の残存するUKでは、特定のアクセントが特定の社会階層を表すという先入観が根強いので、教官によってはアクセントの矯正等を勧められる場合もあります。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など）

ダラム大学への留学生は自動的にCollege（学寮）へと振り分けられます。部屋のアロケーションは生活リズムや性格等の詳細なアンケートを元に決定されます。

私はルームメイトがいる部屋を割り当てられましたが、アンケートを詳細に書いたことで趣味や専門・興味関心の一致した大事な友人を作ることができました。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

大学のあるダラムは歴史ある大聖堂の町であり、すべての用事が徒歩圏内で済むという場所です。もっとも、生活用品等を買うためにはダラムにほど近いNewcastle upon Tyneまで出なければならないので、注意が必要です。

UKの海外学生が銀行口座を開く際には、カレッジの事務局から「bank letter」を受領し、銀行にて手続きをする必要があります。私は銀行の手数料を節約するため、日本の口座からネットバンキング・FXを通じて両替をし、マルチカレンシーカードに直接GBPやユーロを入金していました。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

留学先であるダラムはUKで3番目に治安のいい町なので、特に治安上の問題はないかと思いますが、夜道に一人であるかない、等の海外では当然のことに注意しましょう。UKでは居住者に対して加入の義務づけられているNHSという医療システムがあるため、困った場合はダラムのGP(general practitioner)に無料で診察してもらえますが、基本的には薬局で薬を処方してもらえば大丈夫です。

精神面については、冬の日照時間の短さが精神の健康に悪影響をきたすこともあるため、うまく気分転換などを取り入れることをお勧めします。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

日々の食事はカレッジ（800から1000ポンド/月）でカバーされているため、その他の食事・娯楽費等を鑑みて200ポンドあればゆうに足りるかと思います。

・留学に要した費用総額とその内訳

寮費9000ポンド、教科書等500ポンド、生活費（学期中）1500ポンド、生活費（学期期間外・旅行等）2500ポンド
→13500ポンド

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

「トビタテ！留学JAPAN」官民共同事業：月額10万円。大学の公募にて。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

課外活動では前期教養の時に取り組んでいた議会ディベートのサークルと、カレッジのバスケットボールチームに参加しました。

長期休暇を利用してバックパック旅行を多くし、典型的な観光地は避け、今の年齢や身分でしか行かないような場所に行きました。

また、留学期間終了後は、ロンドンにて日系企業でのインターンを行いました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

留学生に対してのサポートはカレッジ制度のおかげもあって充実しており、物質的・精神的サポートの場として機能していました。語学面については、Academic Learning Centreが行なっている海外出身学生に対する課外授業が役立つように思います。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

図書館は深夜まで開業しており、試験期間になると24時間開業しています。スポーツにも力を入れているダラムではカレッジごと、また大学共通のジムが充実しています。

ネット環境については大学共通のWi-Fiが完備されていますが、時々システムダウンするので注意が必要です。

留学と就職活動について

①（就職活動を既に行った場合）留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②（今後就職活動を行う場合）留学が就職に対する考え方に与えた影響

就職活動における自分の「売り」が変わったということはもちろんですが、自分の希望する職種においてどのようなことを成し遂げたいのか、ということ进行深入考え直す機会となりました。

③留学中の就職活動への対策など（もしあれば）

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

| | |
|---|------------------------------|
| | 1. 研究職 |
| ✓ | 2. 専門職（法曹・医師・会計士等）（職名：弁護士志望） |
| | 3. 公的機関（機関名：） |
| | 4. 非営利団体（団体名又は分野：） |
| | 5. 民間企業（企業名又は業界：） |
| | 6. 起業（分野：） |
| | 7. その他（） |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通じて、日本ではじっくり腰を据えて考えることができなかつた事柄について考えたり、それを様々なバックグラウンドの人々にぶついたりする機会が得られたのは貴重な経験であるように思います。また、comfort-zoneを飛び出すことが大事でありながら、その中でどのように自分らしさ・日本人らしさを追求していくのか、というのは課題であるように思います。

②留学後の予定

司法試験に合格後、修習を経て弁護士になりたいと考えています。特にビジネスや国際活動に関与していく所存です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

「走りながら考える」ことは大事ですし、私もそのような性格なのですが、走る前にゴールまでの距離を知っておくこと、マラソンや駅伝であれば地形くらいは把握しておくことは必要なのではないか、と自分や周りの人間を見て痛感しています。

自分の将来設計や展望の中で、留学がどのような位置付けであるのか、どのような意味を持つことになるのかという定義づけをしないまま留学をしてしまうと、単に海外生活の域を離れないものになってしまうように感じますので、修正を前提とした青写真の設計は不可欠です。皆様の留学が、充実したものになることを祈っております。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

| |
|--|
| |
|--|

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

| |
|--|
| |
|--|